

高温対策への転換を進めます

地球温暖化に伴って気温が少しずつ上昇してきています。令和6年も春先から平年より高い気温で推移してきており、来年以降も高温であると予想しています。管内では冷害対策に主軸を置いていましたが、いよいよ高温対策へ舵を切っていかなければならなくなりました。高温にも対応できる産地に生まれ変わり、持続可能な米産地を目指しましょう。

対策① ケイ酸を中心とした土づくり

これまで豊富な地力に頼ってこられていましたが、高温時代ではそうはいきません。ケイ酸資材投入を長年継続してきた地域では、高温下でも品質を維持できています。ケイ酸資材に加えて、有機物も投入し地力の総合力を維持向上を図りましょう。

【ケイ酸の効果】	葉がシャキッと立ち 受光体勢向上	ケイ酸の「鎧」を身にまとい 病害虫に強く
	異常気象に耐える 養水分転流維持	籾殻を硬く“ふ割れ”防止 斑点米軽減

ケイ酸基肥投入目安量

ケイカル
100kg/10a
以上

堆肥の効果

団粒構造発達
保水力、排水性、保肥力
根域拡大しやすくなる

対策③ 飽水管理の導入

常時湛水ではなく、一時的に田面が露出したとしても土壌の湿潤状態を保つ水管理が「飽水管理」です。土壌の酸化状態を保ち、根の活力維持を図れます。登熟期には、気化熱による地温上昇を抑制でき根の活力低下を防ぎます。

また、節水効果も期待でき、高温対策と異常還元対策も有効な「飽水管理」を積極的に導入します。

高温対策は新しい技術の導入ではなく、これまで培ってきた基本技術とその応用です。温暖になった環境下で、稲作農業を続けていき、地域を守っていくためにも高温対策を確実に実践していきましょう。

「あきたこまちR」の防除対策について

令和7年から「あきたこまちR」の作付けが始まります。従来のあきたこまちにカドミウムを吸収しない特徴を持たせた品種であるので、主な特性は従来のあきたこまちと変わりありません。

Q ごま葉枯れ病対策は？

本病は管内での発生はほとんど無く、切り替えによってすぐに防除を追加する必要はありません。従来の種子消毒を基本としてください。心配な方は箱処理剤でイソチアニル剤、ジクロベンチアゾクス剤が混合された薬剤をご使用ください。

対策② 根活で暑さに勝つ！

高温下で猛暑の熱が地面に伝わると根の活性が落ちてしまい、生育停滞や登熟不良となってしまいます。根を活かす技術を積極的に導入しましょう。この秋から、来夏の根のための作業をしてきましょう。

秋耕排水対策

- ・秋耕は稲刈り後速やかに実施
- ・軟弱ほ場、雑草多発ほ場では秋耕はNG
- 田面停滞水排水、サブソイラで透水性向上を図る。

プラス1cmの根域確保

- ・下はゴロゴロ、上はトロトロの耕起代かき
- ・中干して下根を伸ばす
- ・プラス1cm深くワラすき込みで異常還元抑制も

対策④ 施肥体系の再検討

高温下では稲体維持のための養分消費が激しくなり、登熟養分の不足が起きます。肥効調節型肥料を使っていたとしても追肥が必要になる場合がありますので、7月の生育診断をもとに追肥の検討をしてください。

対策⑤ 刈り取り適期を逃すな！

温暖化によって作期全体が前進しているため、刈り取り適期も前進します。刈り遅れによる品質低下を防ぐためにも、これまでよりも前倒して準備に取り掛からなければなりません。



No.6 農業技術情報

令和6年9月発行

発行：秋田おぼこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



適期刈り取り・ていねいな乾燥調製で最後の仕上げも心をこめて

生育状況 仙北地域振興局農林部農業振興普及課より

今年は高温により生育が早まっていますが、7月下旬に曇天が続いたことで穂ぞろいまで時間を要したことにより、管内の出穂期（盛期）は8月1日（平年差1日早）となりました。8月15日～19日に実施した定点調査結果（あきたこまち、10地点平均）は、穂数は447本/m²（平年比100%）、着粒数は73.4粒/穂（平年比101%）でいずれも平年並であることから、m²当たり全粒数は32.6千粒（平年比101%）で平年並です。葉数は13.2葉（平年差+0.5葉）となっています。

前年は出穂期以降の異常高温の影響により白未熟粒が発生した他、刈り遅れによる胴割れ米等の発生により品質が低下しました。本年は出穂期以降、気温が平年より高く経過していることから、出穂期翌日からの平均気温の積算による刈り取り適期は平年よりやや早まる予想です。刈り取り適期は積算気温の他、積算日照時間や出穂後日数も判断の目安にしながら、最終的には籾の黄化程度を確認して判断してください。

あきたこまち定点調査結果（8/15～19）

	穂数(本/m ²)	着粒数(粒/穂)	着粒数(千粒/m ²)	葉数(葉)
本年値	447	73.4	32.6	13.2
平年値(平年比)	447(100%)	73.0(101%)	32.3(101%)	12.7(+0.5葉)
前年値(前年比)	427(105%)	71.3(103%)	29.9(109%)	13.0(+0.2葉)

刈り取りの注意点	倒伏したほ場では、追い刈りを基本としてゆっくりと刈り取りします。また、刈り取り部を下げて作業をしますが、地面を掘ってしまい土、泥が混入しないように気を付けてください。
	○早生種（あきたこまち・秋のきらめき）……………出穂後45日頃 出穂後気温 950℃～1,050℃ ※積算気温1,100℃を超えると胴割れ粒が増加する。
	○中晩生種（ゆめおぼこ・めんこいな・ひとめぼれ・サキホコレ）…出穂後50日頃 出穂後気温1,050℃～1,150℃ ※積算気温1,200℃を超えると胴割れ粒が増加する。

近年の出穂積算気温到達日（大曲アメダス）

	出穂期	950℃到達日	1050℃到達日
R6(9/2時点予想日)	8月1日	9月7日	9月12日
R5	7月31日	9月3日	9月7日
R4	8月2日	9月11日	9月16日
R3	7月31日	9月8日	9月13日
R2	8月1日	9月6日	9月10日
R1	8月1日	9月9日	9月14日
H30	8月3日	9月12日	9月18日
H29	8月7日	9月18日	9月24日
H28	8月4日	9月12日	9月17日

詳しくは秋田県ホームページへ



